

# 2023 年度保健医療学部在学生調査

## 調査報告書

(2024 年 3 月)

札幌医科大学医療人育成センター・統合 IR 部門

## 目次

I.	概要.....	2
II.	目的.....	3
III.	方法.....	3
IV.	調査結果.....	4
1.	回答状況.....	4
2.	基本属性.....	4
3.	生活状況.....	5
4.	学業の成果：卒業時までに身につけたい能力の獲得状況（DPの評価）.....	6
5.	悩みや不安.....	7
6.	経済状況.....	7
7.	支援制度.....	8
V.	図表.....	9
VI.	資料.....	24
1.	依頼文書.....	24
2.	調査票.....	25

## I. 概要

### <目的>

保健医療学部2-4年生を対象に、DP（ディプロマ・ポリシー）の到達度、学生生活（居住環境、経済状況、課外活動、心理状況、健康問題等）の実態、学部の支援体制の有用性を把握することを目的に実施した。

### <方法>

調査票を用いた集合調査（看護学科3年生はインターネット調査）により行った。調査時期は2023年11月～2024年1月である。基本的属性、生活状況、学業の成果（DPの評価）、悩みや不安、経済状況、支援制度について調査した。

### <結果>

**回収率**：84.1%（228名回収/271名配付）だった(表1)。看護学科3年生のみインターネット調査であり、回収率が低かった（50.0%）。

**基本属性**：居住形態については自宅が63.6%、下宿/アパートが36.4%であった(図1)。通学時間は片道30分～1時間未満（33.9%）の学生が最も多く、1時間以上の者も約2割いた(図2)。加入しているサークル・部活動は、何らかの活動をしている学生が64.0%だった(図3)。加入率は以前よりも低下している(表8)。部活動・サークル活動で得たことはコミュニケーション能力が74.0%と最も多く、次いで人格形成・忍耐力・責任感が52.1%であった(図5)。

**生活状況**：平日の平均睡眠時間は、5～7時間が全体の78.8%を占めていた(図6)。過去の調査と比較すると、5時間未満と回答する学生の割合(10.6%)が増加していた(表12)。食事の頻度については、各学科とも三食きちんと食べているが57.1%であった(図7)。アルバイトの時間は、1週間あたり10時間以上が最も多く62.6%だった(図8)。アルバイトをしていない学生は7.9%で、過去の調査（15%程度）と比較すると、アルバイトをしている学生が増えていることがわかる。アルバイトで得たことについては、コミュニケーション能力、社会人としての基礎力、と回答した学生がともに72.2%、問題対応能力、人格形成・忍耐力・責任感と回答した学生がともに62.2%だった。YouTube、X、Instagram等の閲覧に費やした時間は、1日に1時間～3時間と回答した学生が最も多かったが、5時間以上の者も7.7%いた(図11)。読書に費やした時間は、読書していないとの回答が約6割を占めていた(図12)。ボランティア活動は10.6%の学生しかしていないが(図13)、過去の調査よりも活動している学生が多くなっていった(表22)。

**学業の成果（DPの評価）**：「建学の精神を実現するための基盤となる能力」は、「人々の違いを個性として受け止め、他者を尊重する態度を身につけている」について肯定的な回答が94.3%と最も多く、次いで「他者と積極的にコミュニケーションをとり、良好な対人関係を築くことができる」が81.2%であった(図15)。学年別にみると、4年生の得点が全般的に高くなっていった(表25)。「保健・医療・福祉の実践を担う専門職、専門分野の発展に寄与する能力」では、「対象者の個人情報の保護や、自律的な意思決定の支援など、倫理的な実践をすることができる」の肯定的回答が最も多く（86.3%）、次いで「他の保健医療福祉専門職とコミュニケーションをとり、他職種の意見を尊重することができる」が86.0%と多かった(図16)。学年別ではまた、全般的に4年生の得点が高くなっていった。

**悩みや不安**：現在の悩みや不安はない、と回答した学生が34.2%であった(図17)。悩みや不安の内容は、進路と回答した学生は50.3%、学業は44.3%、対人関係は31.5%だった(図18)。悩みや不安への対処については、できていると回答した学生は60.8%であった(図19)。現在の悩みや不安の相談相手については、家族・友人と回答した学生が93.1%だった(図21)。

**経済状況**：授業料、生活費の支弁者は、87.7%が親・親族であり、自分自身（奨学金を含む）が

9.2%だった(図 21)。奨学金は 38.6%の学生が受給していた(図 22)。学業を続けていく上での経済的な不安がない学生が 80.3%であった(図 23)。

**支援制度：**学生担当教員制度について、「よく知っている」と回答した学生は 75.8%だった(図 24)。学年が上がるにつれ制度の認知度は上昇し、4 年生では 82.1%だった(表 39)。また、前回調査(2021 年)から 11.2%増加していた(表 40)。保健管理センターは、99.1%の学生が「よく知っている」あるいは「聞いたことがある」と回答した(図 25)。ハラスメント相談窓口は、33.8%の学生は認知していなかった(図 26)が、前回調査(2021 年)より認知度は 14.4%増加していた(表 44)。今後学生生活を送る上で充実させて欲しい支援内容としては、進路(47.8%)、国家試験対策(44.7%)、就職(43.4%)が多かった。

### <考察>

調査方法については、集合調査が有効であることが確認できたため、回収率とコスト等を考慮した最適な調査方法について継続して検討する必要があると考えられる。

前回調査との比較で、学生の生活状況に大きな変化は認められないが、コロナ禍で部活動・サークル活動への加入者が減り、アルバイトをする学生が増加していることが顕著な変化としてあげられる。それぞれの活動で得られることが異なるため、学習者としての成長に与える影響については注意深く観察していく必要があるだろう。

DP の評価については、コミュニケーション能力や対象者と適切に関わることができる能力、専門職連携能力の評価が高くなっており、また、4 年次の自己評価が高いこともあり、医療専門職として必要な能力が積み上げ式に涵養されていることが伺えた。また、保健医療総論等、他学部・学科との合同授業等の成果も認められた。

学生担当教員制度と保健管理センターの認知度は高く、とくに保健管理センターは学生にとって身近な存在として定着していることが推察される。ハラスメント相談窓口については、より認知を広げるための方策を検討する必要がある。

充実させるべき支援内容としては、進路、国家試験対策、就職が多かったが、支援を担当する組織・委員会について検討する必要がある。

## II. 目的

本調査は保健医療学部 2-4 年生を対象に、DP の到達度、学生生活(居住環境、経済状況、課外活動、心理状況、健康問題等)の実態、学部の支援体制の有用性を把握し、今後の学生の大学生活をより豊かなものとする学生の支援体制を構築するために、またカリキュラム評価に用いる資料を得ることを目的とする。なお、学生生活については 2004 年(平成 16 年)、2008 年(平成 20 年)、2013 年(平成 25 年)、2016 年(平成 28 年)、2021 年(令和 3 年)に「学生生活基礎調査」として実施されており通算で第 6 回目の調査となる。これらの過去の調査との比較により、学生生活の変化についても検討を行う。

## III. 方法

### 1. 調査方法

保健医療学部在籍する 2-4 年生 271 名(休学中の者は除く)を対象に、調査票を用いた集合調査により行った。ただし、看護学科 3 年生は実習中で全体講義等がないため、Qooker を用いたインターネット調査により回答を得た。調査時期は 2023 年(令和 5 年)11 月～2024 年(令和 6 年)1 月である。

### 2. 調査内容

基本的属性、生活状況、学業の成果(DP の評価)、悩みや不安、経済状況、支援制度について調査し

た。学生の生活実態は、過去の学生生活基礎調査で行った項目をもとに、医学部と比較が可能な調査内容とした。また、DP の評価については、DP 改定後初めての調査となるため、カリキュラム委員会、教務委員会からの意見を聴取して項目を作成した。

### 3. 倫理的配慮

調査の実施において、下記の点に留意し、学生には依頼文書を用いて周知し、調査の協力を依頼した。

- 1)調査協力への同意：本調査への回答をもって、調査への同意と見なす。
- 2)同意しない場合の不利益：調査協力は任意であり、協力しなくても不利益はない。
- 3)プライバシー保護：調査は無記名で行う。データは統計学的に処理され、個人が特定されることはない。ただし2年生については、入学時に継続的的教学情報収集の同意を得ているため、記名式で調査を行う（他の情報と連結して統計的分析を行う可能性がある）。
- 4)回答は統合 IR 部門が管理するインターネットに接続しない PC またはハードディスクに保管され、厳重に管理する。
- 5)調査の結果は全学、学部、医療事故情報センター等の学内会議で報告する。
- 6)予期される危険と費用負担：回答には15分程度の時間と作業を要する。費用負担はない。

### 4. 分析

各項目について度数分布、学科別集計、学年別集計を行った。過去に行われた学生生活基礎調査と調査項目及び選択肢が同一または類似している場合は、経時的変化を考察した。なお、DP の評価については、本年行われた卒業生調査、雇用者調査とも比較が可能な項目（旧 DP の評価と内容が同じである）についてのみ比較検討を行う。

## IV. 調査結果

### 1. 回答状況

回収率は84.1%（228名回収/271名配付）だった(表1)。学科別では、理学療法学科（100.0%）作業療法学科（98.3%）、看護学科（72.0%）の順で高かった。学年別では3年生が低く（72.5%）、4年生が高くなっていった（95.5%）(表2)。看護学科3年生が実習のためインターネット調査となったことが、学科別、学年別の回収率に大きな影響を与えていた。前回調査（第5回：2021年）においてはじめてインターネット調査を導入したが、大幅な回収率の低下がみられたため、今回は、看護学科3年生以外は調査票を用いた集合調査を実施した。その結果、回収率は84.1%であった。今後も、回収率とコスト等を考慮した最適な調査方法について継続して検討する必要がある。

### 2. 基本属性

基本属性として「居住形態」「通学時間」「加入しているサークル・部活動」「部活動・サークル活動への参加頻度」「部活動・サークル活動で得たこと」について調査を行った。

「居住形態」については『自宅』が63.6%、『下宿/アパート』が36.4%であった(図1)。学科別にみると理学療法学科、学年別にみると3年生が他と比較して『自宅』の割合が少なかった(表3)。過年度調査との比較では、『自宅』が2021年度より1割弱減少していた(表4)。

「通学時間」は片道『30分～1時間未満』(33.9%)が最も多く、次いで『15分未満』(30.8%)で、『1時間以上』も約2割いた(図2)。2021年度・2016年度より『15分未満』が減少していた。

「加入しているサークル・部活動（複数回答）」は『運動系』が約5割と最も多く、何らかの活動をしている学生は約6割であった(図3)。学年別にみると、2年生が約7割と最も多く加入しており、次いで4年生が6割であった(表7)。2016年度・2021年度との比較では加入率が減少しており、新

型コロナウィルスの影響が少なからずあったものと考えられる(表8)。

「部活動・サークル活動への参加頻度」は『週1回』が約4割と最も多く、次いで『週2回』が3割弱であった(図4)。なお、『週5回以上』参加している4年生が1割弱いた(表9)。学年別にみると、学年が上がるにつれて参加頻度が低下する傾向にあった。

「部活動・サークル活動で得たこと」は『コミュニケーション能力』が約7割と最も多く、次いで『人格形成、忍耐力・責任感』が約5割であった(図5)。医療従事者として欠かせない力を養う機会でもあると考えられる。

### 3. 生活状況

学生の生活状況を把握するために、「平日の平均睡眠時間」「食事の頻度」「アルバイトの時間」「アルバイトで得たこと」「PC・スマホ・タブレット等で他者とのコミュニケーションに費やした時間」「YouTube、X(旧Twitter)、Instagram等の閲覧に費やした時間」「読書に費やした時間」「ボランティア活動」「友人の人数」に関して調査を行った。

「平日の平均睡眠時間」は、各学科とも『5～6時間』『6～7時間』が多かった(表11)。学年別では、3年生が他学年に比べて『5時間未満』の割合が多かった。過年度調査との比較では、2021年度調査は『6～7時間』が最も多かったが、今回は『5～6時間』が最も多かった(表12)。また、2016年度からの過去3回の調査を比較すると、『5時間未満』と回答する学生の割合が増加していた。これは、新型コロナウイルス対策が解除され、通常の生活に戻ったことに加えて、学生のライフスタイルの変化が反映されたものと考えられる。

「食事の頻度」については、各学科とも『三食きちんと食べている』が過半数を占めていた(図7、表13)。『三食きちんと食べている』と回答した学生は、作業療法学科で63.2%と他学科よりも多く、学年別では3年生で62.5%と他学年よりも多い結果であった。

「アルバイトの時間」は、各学科とも1週間あたり『10時間以上』が最も多く5～6割を占めた(図8、表14)。『していない』『3時間未満』と回答した学生は、全体の約1割であった。学年別では、2年生で『10時間以上』が7割を超え、3・4年生で『3時間以上-10時間未満』『10時間以上』が合わせて8割を超えていた(表15)。『していない』と回答した割合は、2021年度では2～3割であったのに対して、今回は1割未満と減少していた。新型コロナウイルス対策に伴う行動制限の解除や、部活動・サークル活動の加入者が減少していることが関係していると考えられる。

「アルバイトで得たこと」については、『コミュニケーション能力』『社会人としての基礎力』と回答した学生が70%以上、『問題対応能力』『人格形成、忍耐力、責任感』とした学生が約60%、『授業では得られない知識・教養』が約50%であった(図9)。学科別では、看護学科で『社会人としての基礎力』とした学生が8割以上と最も多く、理学療法学科と作業療法学科で『コミュニケーション能力』とした学生が6割以上であった(表16)。学年別では、4年生で『社会人としての基礎力』とした学生が8割弱と最も多かった。「アルバイトで得たこと」については、今後の社会生活において必要とされる能力や知識が大多数を占めていたことから、大学生活において、経済的理由によるアルバイト活動というよりも、大学内では学ぶことの出来ない一般的な教養を身につける場として活用していることが窺える。

「PC・スマホ・タブレット等で他者とのコミュニケーションに費やした時間」は、1日あたり『30分～2時間』とした学生が4割と最も多く、次いで『2時間以上』が3割、『30分未満』が2割という結果であった(図10)。学科別では、『2時間以上』と回答した学生は看護学科で最も多く、学年別では、『30分未満』と回答した学生が3年生で最も多い結果であった(表17)。

「YouTube、X（旧 Twitter）、Instagram 等の閲覧に費やした時間」について、各学科とも『1 時間～3 時間』と回答した学生が 4 割から 5 割と最も多く、『3 時間～5 時間』『5 時間以上』は合わせて 3 割以上を占めていた(図 11, 表 18)。学年別では、『5 時間以上』と回答した学生は 2・3 年生で 7～8%であったのに対し、4 年生では 16.5%を占めていた。前回 2021 年度調査では、1 日のインターネット利用時間が『1～3 時間』とした割合が最も多く、今回の調査でも『1～3 時間』が最も多く前回と同様の結果であった(表 19)。一方で、前回の調査で『5 時間以上』と回答した学生が 15%程度であったのに対して、今回は約 7%と半減していた。これは、新型コロナウイルス対策による行動制限解除が要因の一つと考えられる。

「読書に費やした時間」は、各学科・各学年ともに『していない』が最も多く約 6 割を占め、『30 分未満』が全体の約 3 割、残りの 1 割が『30 分～2 時間』『2 時間以上』であった(図 12, 表 20)。

「ボランティア活動」については、全体の 9 割が『していない』であった(図 13)。学科別では理学療法学科と作業療法学科、学年別では 3 年生で 1 割以上の学生が『した』と回答しており、何かしらのボランティア活動を行っていた(表 21)。前回 2021 年度の調査では『した』と回答した学生が約 4%であったのに対して、今回は 10%と増加していた(表 22)。

「友人の人数」については、各学科とも『まあまあいる』が約 6 割と最も多かったが、3 年生で『ほとんどいない』と回答した学生が数名いた(図 14, 表 23)。2004 年度からの今回までの過去 5 回の調査では、『まあまあいる』が半数以上を占めており、同様の傾向が続いている(表 24)。一方で、『大勢いる』が前々回 2016 年度、前回 2021 年度と引き続き 1 割程度となっており、学生の社会環境の近年の特徴を表しているものと考えられた。

#### 4. 学業の成果：卒業時まで身に付けたい能力の獲得状況（DP の評価）

学業の成果を把握するために、卒業までに身に付けたい能力である「建学の精神を実現するための基盤となる能力」「保健・医療・福祉の実践を担う専門職、専門分野の発展に寄与する能力」に関して調査を行った。

「建学の精神を実現するための基盤となる能力」は、「人々の違いを個性として受け止め、他者を尊重する態度を身につけている」について『そうである/まあそうである』の回答が 9 割を超え最も多く、次いで「他者と積極的にコミュニケーションをとり、良好な対人関係を築くことができる」が約 8 割であった(図 15)。『そうである/まあそうである』の割合が最も低かったのは、「保健医療福祉のシステム全般を理解し、よりよい方向に進めるための意見を持っている」(約 4 割)であった。学科別の能力獲得平均点に違いはみられなかったが、学年が上がるにつれ点数が上昇していた(表 25)。

他者への尊重、コミュニケーションや対人関係の構築については、授業や演習で基本を学び、実習等での対象者への援助、さらに部活動・サークルおよびアルバイトの経験等から獲得されてきたものと推察される。一方、保健医療福祉システム全般の理解、システム促進に向けた思考は難易度が高く、学修の機会を重ね広い視野を持つことで能力の獲得が促進されると考える。4 年生の平均点が他項目と比較して低いことから、意図的な教授が必要であるといえる。

「保健・医療・福祉の実践を担う専門職、専門分野の発展に寄与する能力」は、能力獲得について『そうである/まあそうである』の回答がすべての項目で 6～8 割であった(図 16)。平均点が最も高かったのは「対象者の個人情報の保護や、自律的な意思決定の支援など、倫理的な実践をすることができる」であり、次いで「他の保健医療福祉専門職とコミュニケーションをとり、他職種の意見を尊重することができる」であった。倫理的実践については能力獲得平均点が 2 年生においても他項目と比較して高く、低学年から学修の機会が充分にあったものと考えられる(表 26)。また、他職種との連

携については、保健医療総論等、他学部・学科との合同授業等の成果であると推察される。

## 5. 悩みや不安

学生生活における悩みや不安を把握するために、「現在の悩みや不安」「悩みや不安の内容」「悩みや不安への対処」「悩みや不安の相談相手」に関して調査を行った。

「現在の悩みや不安」の有無について、『たくさんある』と回答した学生は1割弱であった(図17)。『まあまあある』『少しはある』と回答した学生は6割弱を占め、『全くない』『ほとんどない』と回答した学生は3割強であった。作業療法学科は『たくさんある』と回答した学生が最も多く、理学療法学科は『少しはある』と回答した学生が最も多かった(表27)。学年別では3年生が『たくさんある』が最も多く、4年生は『まあまあある』と『ほとんどない』がそれぞれ3割強であった。一方で、4年生の悩みや不安を抱えている学生の割合は、『まあまあある』と『ほとんどない』に二分化する傾向も窺えた。前回調査(2021年度)の結果と比較すると、悩みや不安を抱えている学生の割合には大きな変化は見られていない(表28)。

「悩みや不安の内容」については、『進路』と回答した学生は約5割、『学業』と回答した学生は約4割強、『対人関係(家族/友人/異性)』と回答した学生は約3割、『経済状況』と回答した学生は約2割であった(図18)。『教員との人間関係』と回答した学生は2%にとどまっていた。『進路』を悩みと回答した学生が最も多かったのは3年生、『学業』を悩みと回答した学生が最も多かったのは4年生であった(表29)。

「悩みや不安への対処」については、『ほとんどできている』『まあまあできている』と回答した学生は全体の約6割を占め、『まあまあできている』と回答した学生が最も多かった(図19)。『どちらともいえない』と回答した学生は約3割、『できていない/あまりできていない』と回答した学生は1割弱であった。悩みや不安への対処について、前回調査時と大きく変化は見られなかった(表32)。

「現在の悩みや不安の相談相手」については、『家族・友人』と回答した学生が9割を超えており、『学担・副学担』に相談すると回答した学生は1割弱にとどまっていた(図20)。相談相手について前回調査時と大きく変化は見られなかったが、『学担・副学担』と回答した学生の割合は前回調査より半減しており、相談相手としての優先順位が高くないことが推察された(表34)。

## 6. 経済状況

学生の経済状況を把握するために、「授業料、生活費の支弁者」「奨学金の受給」「学業を続けていく上での経済的な不安」について調査を行った。

「授業料、生活費の支弁者」は、8~9割が『親・親族』であり、次いで『自分自身(奨学金を含む)』が1割程度と続き、『全額免除されている』がごく少数であった(図21)。学科別では、看護学科と作業療法学科の約1割において『自分自身(奨学金を含む)』と回答していた(表35)。

「奨学金の受給」は、約4割の学生が受給していた(図22)。学科別では看護学科、作業療法学科が4割以上であったのに対して、理学療法学科が2割程度の受給であった(表36)。学年別では、回答割合が大きい順に3年生、2年生、4年生の順であった。前回調査(2021年)と比較して、「奨学金の受給」の受給割合も約4割程度であり差はなかった(表37)。

「学業を続けていく上での経済的な不安」について、『ある』が19.7%、『ない』が80.3%であった(図23)。学科別では、『ある』と回答した学生が看護学科、理学療法学科で約2割であったのに対して、作業療法学科では1割であった(表38)。学年別では、2年生で約1割、3年生と4年生で2割以上の学生が『ある』と回答していた。



## 7. 支援制度

大学の「支援制度」に関する学生の認知度および満足度を把握するために、「学生担当教員（学担・副学担）制度の認知」「保健管理センターの認知」「ハラスメント相談窓口の認知」「今後学生生活を送る上で充実させて欲しい支援内容」に関して調査を行った。

「学生担当教員（学担・副学担）制度の認知」について、『よく知っている』と回答した学生は、学年が進むにつれて増加し、4年生では約8割であった(図24, 表39)。学科別では看護学科の認知度が最も高く、理学療法学科、作業療法学科と続いた。2021年度調査と比較すると、『良く知っている』と回答した学生の割合が11.2%増加していた(表40)。後述するように、「今後の学生生活を送る上で充実させて欲しい支援内容」(図27)で挙げられている『進路』『就職』などのサポートにおいても、学生担当教員は重要な役割を担う存在であることが窺える。

「保健管理センターの認知」については、ほぼすべての学生が『よく知っている』あるいは『聞いたことがある』と回答した(図25)。2021年度調査においてもほとんど全ての学生が『良く知っている』『聞いたことはある』と回答していた(表42)。保健管理センターが新型コロナウイルス感染症対策において重要な役割を担っていたこと、保健師ならびに臨床心理士が配置され体制が強化されたことなどが要因として挙げられる。保健管理センターは学生にとって身近な存在として定着していることが推察される。

「ハラスメント相談窓口の認知」については、『よく知っている』あるいは『聞いたことがある』が7割弱であり、3分の1の学生は『知らない』と回答した(図26)。2021年度調査より『良く知っている』『聞いたことはある』と回答した学生の割合が14.4%増加し、ハラスメント相談窓口が認知されつつある(表44)。しかしながら、ハラスメント相談窓口の存在を『知らない』と3分の1の学生が回答していることから、その役割や支援内容について、学生に周知する方法を改めて検討する必要があると考えられる。

「今後学生生活を送る上で充実させて欲しい支援内容」としては、『進路』『国家試験対策』『就職』の順に多く、半数弱の学生の回答がみられた(図27)。学担・副学担に加え、各学科教員や科目担当責任者が連携して、これらをサポートする体制の整備が重要となる。

## V. 図表

### 1. 回収率

表 1. 回収率：学科別学年別 % (配布数/回収数)

学科	学年			
	全体	2年生	3年生	4年生
看護学科	72.0(108/150)	74.0( 37/ 50)	50.0( 25/50)	92.0( 46/50)
理学療法学科	100.0( 62/ 62)	100.0( 20 / 20)	100.0( 21/21)	100.0( 21/21)
作業療法学科	98.3( 58/ 59)	95.2( 20 / 21)	100.0( 20/20)	100.0( 18/18)
全体	84.1(228/271)	84.6( 77/ 91)	72.5( 66/91)	95.5 ( 85/89)

表 2. 回収率：年度別

調査年度	回収数	%
第 2 回 2008 年(N=346)	337	97.4
第 3 回 2013 年(N=358)	291	81.3
第 4 回 2016 年(N=352)	349	99.1
第 5 回 2021 年(N=362)	220	60.8
第 6 回 2023 年(N=)	228	84.1

### 2. 基本属性と生活状況

#### 1) 居住形態

図1.全体(2023年度,  
n=228)

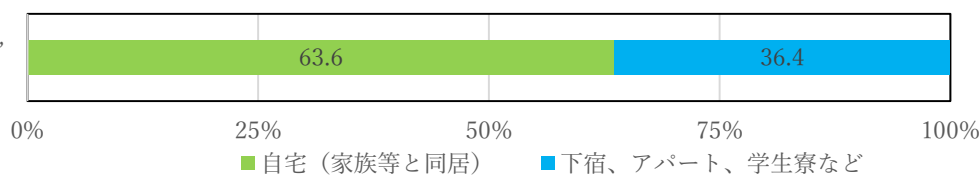


表 3. 居住形態：学科別・学年別 (%)

		自宅	下宿/アパート等
学科別	看護学科(n=108)	66.7	33.3
	理学療法学科(n=62)	59.7	40.3
	作業療法学科(n=58)	62.1	37.9
学年別	2年生(n=77)	63.6	36.4
	3年生(n=66)	57.6	42.4
	4年生(n=85)	68.2	31.8

表 4. 居住形態：年度別 (%)

年度	自宅	下宿/アパート等	学生寮
第 1 回 2004 年(n=321)	59.7	36.9	4.4
第 2 回 2008 年(n=337)	57.1	40.5	2.4
第 3 回 2013 年(n=291)	63.7	31.5	4.8
第 4 回 2016 年(n=349)	63.0	30.9	6.0
第 5 回 2021 年(n=220)	71.6	27.9	0.5
第 6 回 2023 年(n=226)	63.6	36.4	-

## 2) 通学時間（片道）

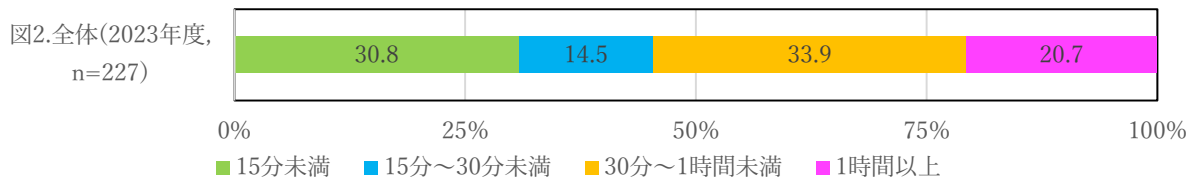


表 5. 通学時間：学科別・学年別 (%)

		15分未満	15-30分未満	30分-1時間未満	1時間以上
学科別	看護学科(n=108)	30.6	11.1	31.5	26.9
	理学療法学科(n=61)	27.9	19.7	42.6	9.8
	作業療法学科(n=58)	34.5	15.5	29.3	20.7
学年別	2年生(n=77)	29.9	15.6	29.9	24.7
	3年生(n=65)	35.4	16.9	26.2	21.5
	4年生(n=85)	28.2	11.8	43.5	16.5

表 6. 通学時間：年度別 (%)

年度	15分以内	16-30分内	31-45分内	46-60分内	61-90分	91分以上
第4回 2016年(n=349)	38.9	14.7	12.7	21.3	12.4	
第5回 2021年(n=220)	33.8	13.0	15.7	23.1	13.4	0.9
年度	15分未満	15-30分未満	30分-1時間未満	1時間以上		
第6回 2023年(n=226)	30.8	14.5	33.9	20.7		

## 3) 加入している部活動・サークル（複数回答）

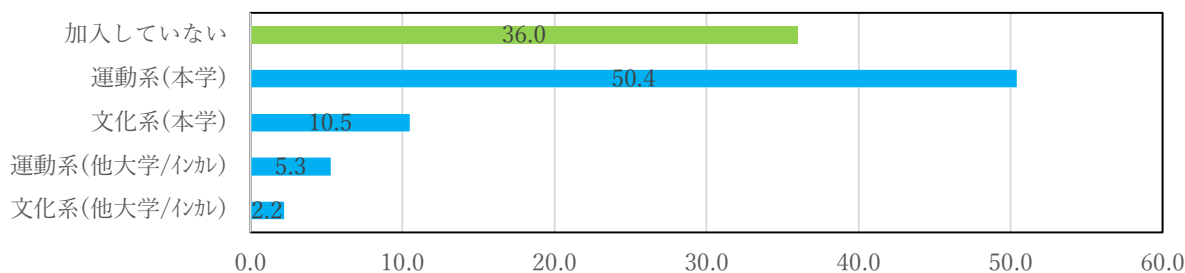


図3.全体における% (n=228)

表 7. 加入している部活動・サークル：学科別・学年別 (%)

		加入していない	運動系(本学)	文化系(本学)	運動系(他大学/ｲｶﾞﾙ)	文化系(他大学/ｲｶﾞﾙ)
学科別	看護学科(n=108)	37.0	48.1	9.3	5.6	3.7
	理学療法学科(n=62)	22.6	67.7	11.3	3.2	0.0
	作業療法学科(n=58)	48.3	36.2	12.1	6.9	1.7
学年別	2年生(n=77)	24.7	57.1	11.7	7.8	2.6
	3年生(n=66)	43.9	42.2	9.1	4.5	3.0
	4年生(n=85)	40.0	50.6	10.6	3.5	1.2

表 8. 加入している部活動・サークル：年度別 (%)

	加入していない	運動系(本学)	文化系(本学)	運動系(他大学/ｲｶﾞﾙ)	文化系(他大学/ｲｶﾞﾙ)
第2回 2008年(n=337)	15.1	-	-	-	-
第4回 2016年(n=349)	12.7	-	-	-	-
第5回 2021年(n=220)	21.8	-	-	-	-
第6回 2023年(n=226)	36.0	50.4	10.5	5.3	2.2

4) 部活動・サークル活動への参加頻度（1週あたり、加入者のみ）

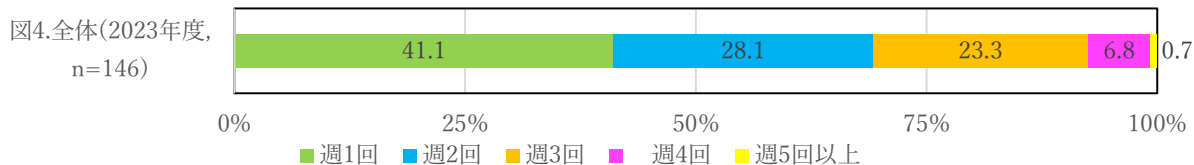
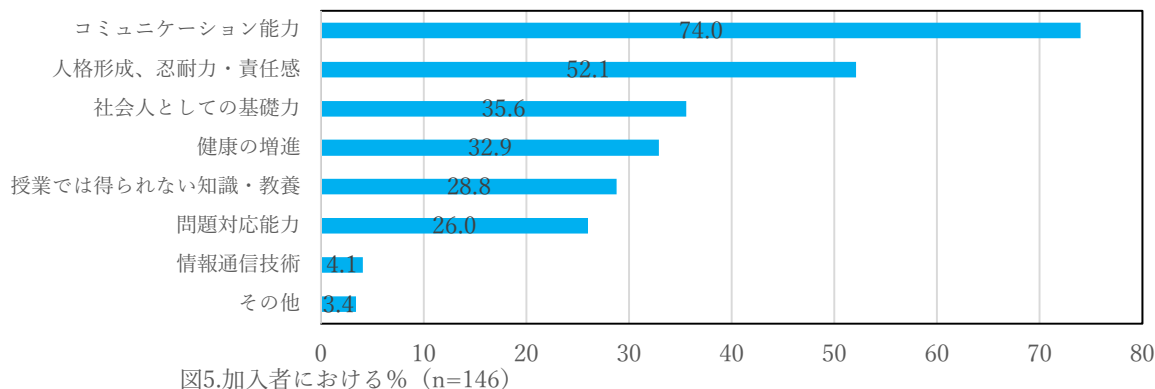


表 9. 部活動・サークル活動への参加頻度：学科別・学年別 (%)

		週1回	週2回	週3回	週4回	週5回以上
学科別	看護学科(n=68)	44.1	23.5	26.5	5.9	0.0
	理学療法学科(n=48)	35.4	33.3	18.8	10.4	2.1
	作業療法学科(n=30)	43.3	30.0	23.3	3.3	0.0
学年別	2年生(n=58)	29.3	32.8	31.0	6.9	0.0
	3年生(n=37)	56.8	24.3	16.2	2.7	0.0
	4年生(n=51)	43.1	25.5	19.6	9.8	2.0

5) 部活動・サークル活動で得たこと（複数回答）（加入者のみ）



\* その他：人脈・人間関係の広がり（3件）、他学部・他学科との交流、タイムマネジメント力

表 10. 部活動・サークル活動で得たこと：学科別・学年別 (%)

		コミュニケーション能力	人格形成、忍耐力・責任感	社会人としての基礎力	健康の増進	授業では得られない知識・教養	問題対応能力	情報通信技術	その他
学科別	看護学科(n=67)	74.6	52.2	31.3	17.9	32.8	19.4	3.0	7.5
	理学療法学科(n=47)	68.1	57.4	34.0	51.1	17.0	25.5	4.3	0.0
	作業療法学科(n=32)	81.3	43.8	46.9	37.5	37.5	40.6	6.3	0.0
学年別	2年生(n=58)	79.3	53.4	46.6	31.0	25.9	24.1	3.4	1.7
	3年生(n=38)	73.7	50.0	31.6	28.9	36.8	28.9	7.9	7.9
	4年生(n=50)	68.0	52.0	26.0	38.0	26.0	26.0	2.0	2.0

6) 平日の平均睡眠時間

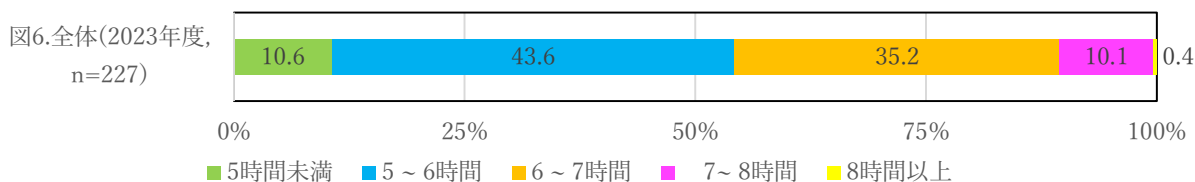


表 11. 平日の平均睡眠時間：学科別・学年別 (％)

		5 時間未満	5 ～ 6 時間	6 ～ 7 時間	7 ～ 8 時間	8 時間以上
学科別	看護学科(n=108)	15.7	45.4	34.3	3.7	0.9
	理学療法学科(n=62)	3.2	43.5	37.1	16.1	0.0
	作業療法学科(n=57)	8.8	40.4	35.1	15.8	0.0
学年別	2 年生(n=77)	10.4	42.9	35.1	11.7	0.0
	3 年生(n=65)	21.5	43.1	27.7	6.2	1.5
	4 年生(n=85)	2.4	44.7	41.2	11.8	0.0

表 12. 平均睡眠時間：年度別 (％)

	5 時間未満	5 ～ 6 時間	6 ～ 7 時間	7 ～ 8 時間	8 時間以上
第 4 回 2016 年(n=349)	6.9	41.8	39.8	10.9	0.6
第 5 回 2021 年(n=220)	8.3	35.0	41.0	13.4	2.3
第 6 回 2023 年(n=224)	10.6	43.6	35.2	10.1	0.4

## 7) 食事の頻度

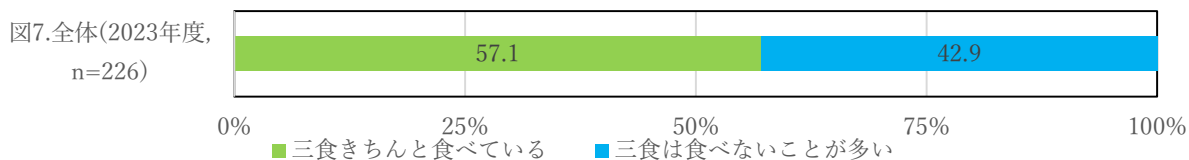


表 13. 食事の頻度：学科別・学年別 (％)

		三食きちんと食べている	三食は食べないことが多い
学科別	看護学科(n=108)	54.6	45.4
	理学療法学科(n=61)	55.7	44.3
	作業療法学科(n=57)	63.2	36.8
学年別	2 年生(n=77)	58.4	41.6
	3 年生(n=64)	62.5	37.5
	4 年生(n=85)	51.8	48.2

## 8) アルバイトの時間 (1 週あたり)

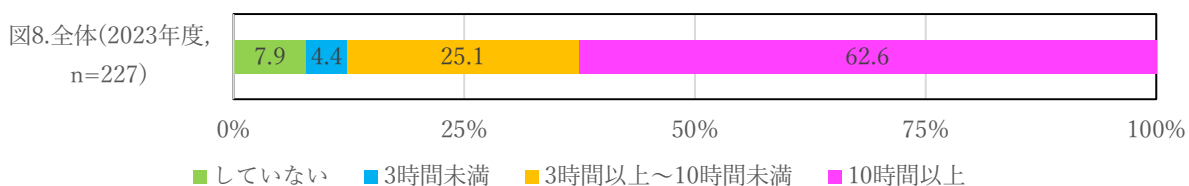


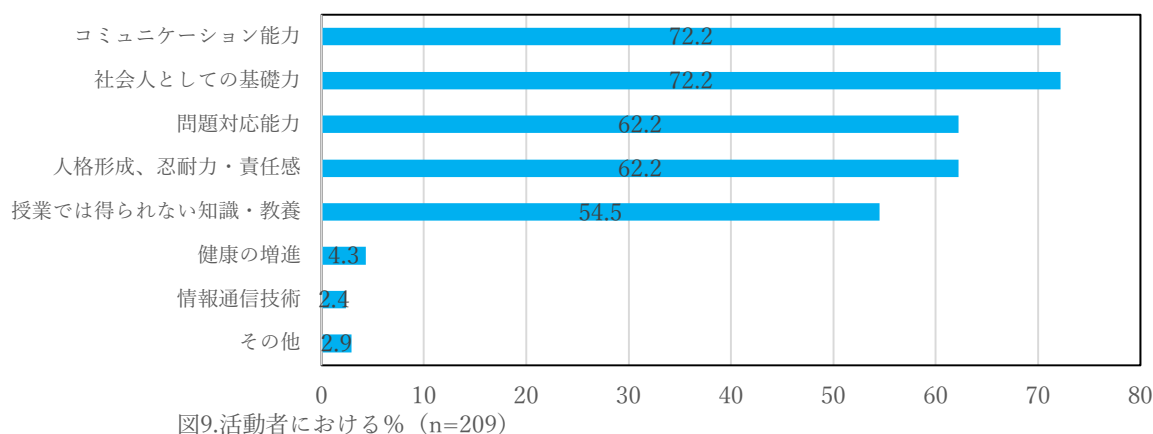
表 14. アルバイトの時間：学科別・学年別 (％)

		していない	3 時間未満	3 時間以上-10 時間未満	10 時間以上
学科別	看護学科(n=108)	7.4	6.5	18.5	67.6
	理学療法学科(n=61)	6.6	3.3	29.5	60.7
	作業療法学科(n=58)	10.3	1.7	32.8	55.2
学年別	2 年生(n=77)	6.5	3.9	18.2	71.4
	3 年生(n=65)	9.2	3.1	30.8	56.9
	4 年生(n=85)	8.2	5.9	27.1	58.8

表 15. アルバイトの時間：年度別 (％)

	していない	3 時間未満	3 時間以上- 10 時間未満	10 時間以上
第 1 回 2004 年(n=321)	17.8	-	-	-
第 2 回 2008 年(n=337)	13.4	-	-	-
第 3 回 2013 年(n=295)	22.7	-	-	-
第 4 回 2016 年(n=349)	15.2	-	-	-
第 5 回 2021 年(n=220)	16.4	-	-	-
第 6 回 2023 年(n=225)	7.9	4.4	25.1	62.6

9) アルバイトで得たこと (複数回答) (活動者のみ)



\*その他：教育能力、タイムマネジメント力、考える力、大学外での他者との関わり、効率を考えた行動、お金

表 16. アルバイトで得たこと：学科別・学年別 (％)

		コミュニ ケーショ ン能力	社会人と しての基 礎力	問題対応 能力	人格形 成、忍耐 力・責任 感	授業では 得られな い知識・ 教養	健康の増 進	情報通信 技術	その他
学科別	看護学科(n=100)	78.0	82.0	67.0	70.0	61.0	4.0	2.0	4.0
	理学療法学科(n=57)	66.7	57.9	61.4	47.4	42.1	5.3	0.0	1.8
	作業療法学科(n=52)	67.3	69.2	53.8	63.5	55.8	3.8	5.8	1.9
学年別	2 年生(n=72)	66.7	73.6	62.5	58.3	52.8	6.9	2.8	2.8
	3 年生(n=59)	74.6	62.7	55.9	54.2	57.6	1.7	3.4	5.1
	4 年生(n=78)	75.6	78.2	66.7	71.8	53.8	3.8	1.3	1.3

10) PC・スマホ・タブレット等で他者とコミュニケーションに費やした時間 (1 日あたり：大学の講義でを使用した時間は除く)

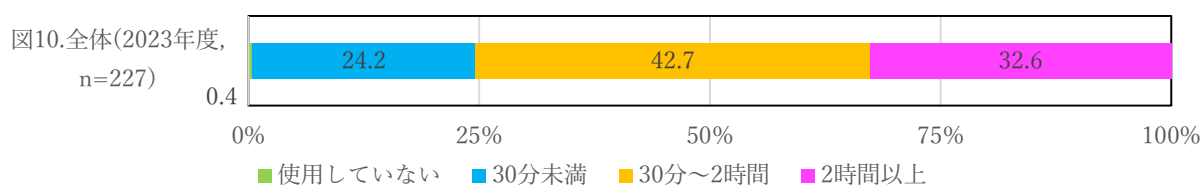


表 17. PC・スマホ・タブレット等で他者とコミュニケーションに費やした時間：学科別・学年別 (%)

		使用していない	30分未満	30分～2時間	2時間以上
学科別	看護学科(n=108)	0.9	21.3	41.7	36.1
	理学療法学科(n=61)	0.0	24.6	45.9	29.5
	作業療法学科(n=58)	0.0	29.3	41.4	29.3
学年別	2年生(n=77)	0.0	19.5	42.9	37.7
	3年生(n=65)	1.5	30.8	46.2	21.5
	4年生(n=85)	0.0	23.5	40.0	36.5

11) YouTube、X(旧Twitter)、Instagram等の閲覧に費やした時間(1日あたり)

図11.全体(2023年度, n=227)

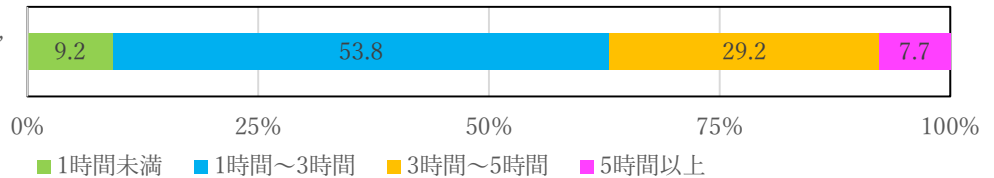


表 18. YouTube、X(旧Twitter)、Instagram等の閲覧に費やした時間：学科別・学年別 (%)

		1時間未満	1時間～3時間	3時間～5時間	5時間以上
学科別	看護学科(n=108)	5.6	56.5	26.9	11.1
	理学療法学科(n=61)	14.8	42.6	34.4	8.2
	作業療法学科(n=58)	6.9	51.7	27.6	13.8
学年別	2年生(n=77)	7.8	57.1	27.3	7.8
	3年生(n=65)	9.2	53.8	29.2	7.7
	4年生(n=85)	8.2	44.7	30.6	16.5

表 19. YouTube、X(旧Twitter)、Instagram等の閲覧に費やした時間：年度別 (%)

	1時間未満	1時間～3時間	3時間～5時間	5時間以上
第5回 2021年(n=220)*	12.6	56.0	24.1	15.4
第6回 2023年(n=225)	9.2	53.8	29.2	7.7

\*1日のインターネット利用時間(検索・サーフィン・動画視聴)

12) 読書(マンガ・一般雑誌を除く)に費やした時間(1日あたり)

図12.全体(2023年度, n=227)

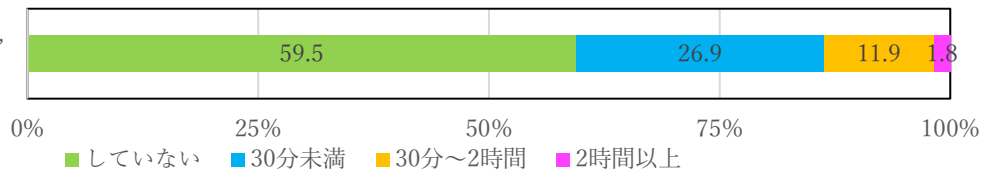


表 20. 読書(マンガ・一般雑誌を除く)に費やした時間：学科別・学年別 (%)

		していない	30分未満	30分～2時間	2時間以上
学科別	看護学科(n=108)	55.6	28.7	13.0	2.8
	理学療法学科(n=61)	57.4	31.1	11.5	0.0
	作業療法学科(n=58)	69.0	19.0	10.3	1.7
学年別	2年生(n=77)	63.6	23.4	11.7	1.3
	3年生(n=65)	58.5	24.6	15.4	1.5
	4年生(n=85)	56.5	31.8	9.4	2.4

13) ボランティア活動（この1年間）

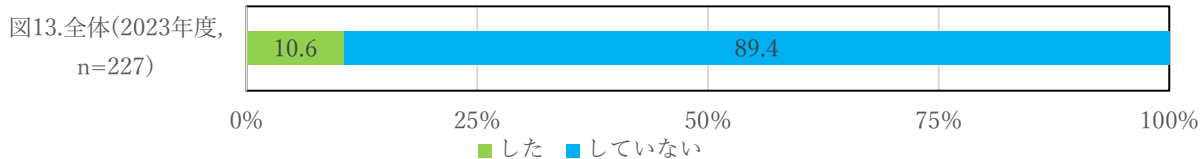


表 21. ボランティア活動：学科別・学年別 (%)

		した	していない
学科別	看護学科(n=108)	6.5	93.5
	理学療法学科(n=61)	11.5	88.5
	作業療法学科(n=58)	17.2	82.8
学年別	2年生(n=77)	6.5	93.5
	3年生(n=65)	16.9	83.1
	4年生(n=85)	9.4	90.6

表 22. 年度別ボランティア活動 (%)

	した	していない
第4回 2016年(n=349)	6.0	94.0
第5回 2021年(n=220)	3.8	96.2
第6回 2023年(n=227)	10.6	89.4

14) 友人の人数（学内外問わない）

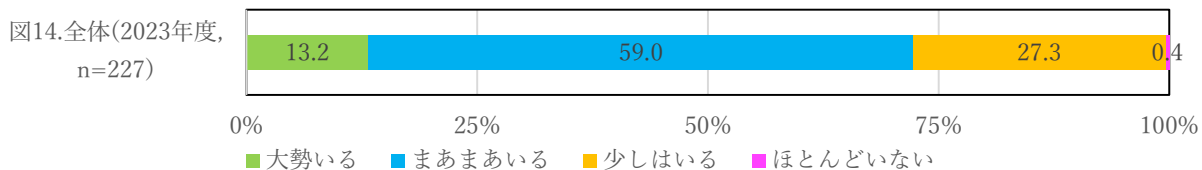


表 23. 友人の人数：学科別・学年別 (%)

		大勢いる	まあまあいる	少しはいる	ほとんどいない
学科別	看護学科(n=108)	15.7	55.6	28.7	0.0
	理学療法学科(n=61)	8.2	62.3	27.9	1.6
	作業療法学科(n=58)	13.8	62.1	24.1	0.0
学年別	2年生(n=77)	14.3	58.4	27.3	0.0
	3年生(n=65)	20.0	52.3	26.2	1.5
	4年生(n=85)	7.1	64.7	28.2	0.0

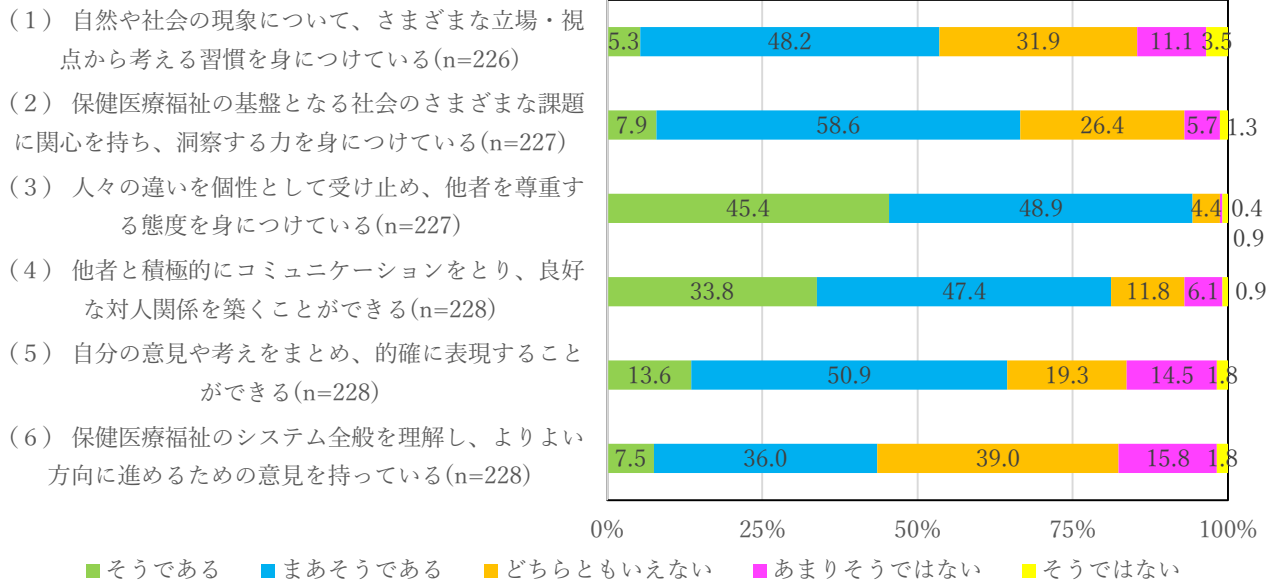
表 24. 友人の人数：年度別 (%)

	大勢いる	まあまあいる	少しはいる	ほとんどいない
第1回 2004年(n=321)	18.1	68.5	12.8	0.6
第3回 2013年(n=291)	18.2	66.0	14.4	2.1
第4回 2016年(n=349)	11.2	64.2	22.9	1.7
第5回 2021年(n=220)	8.4	64.5	25.2	1.9
第6回 2023年(n=227)	13.2	59.0	27.3	0.4

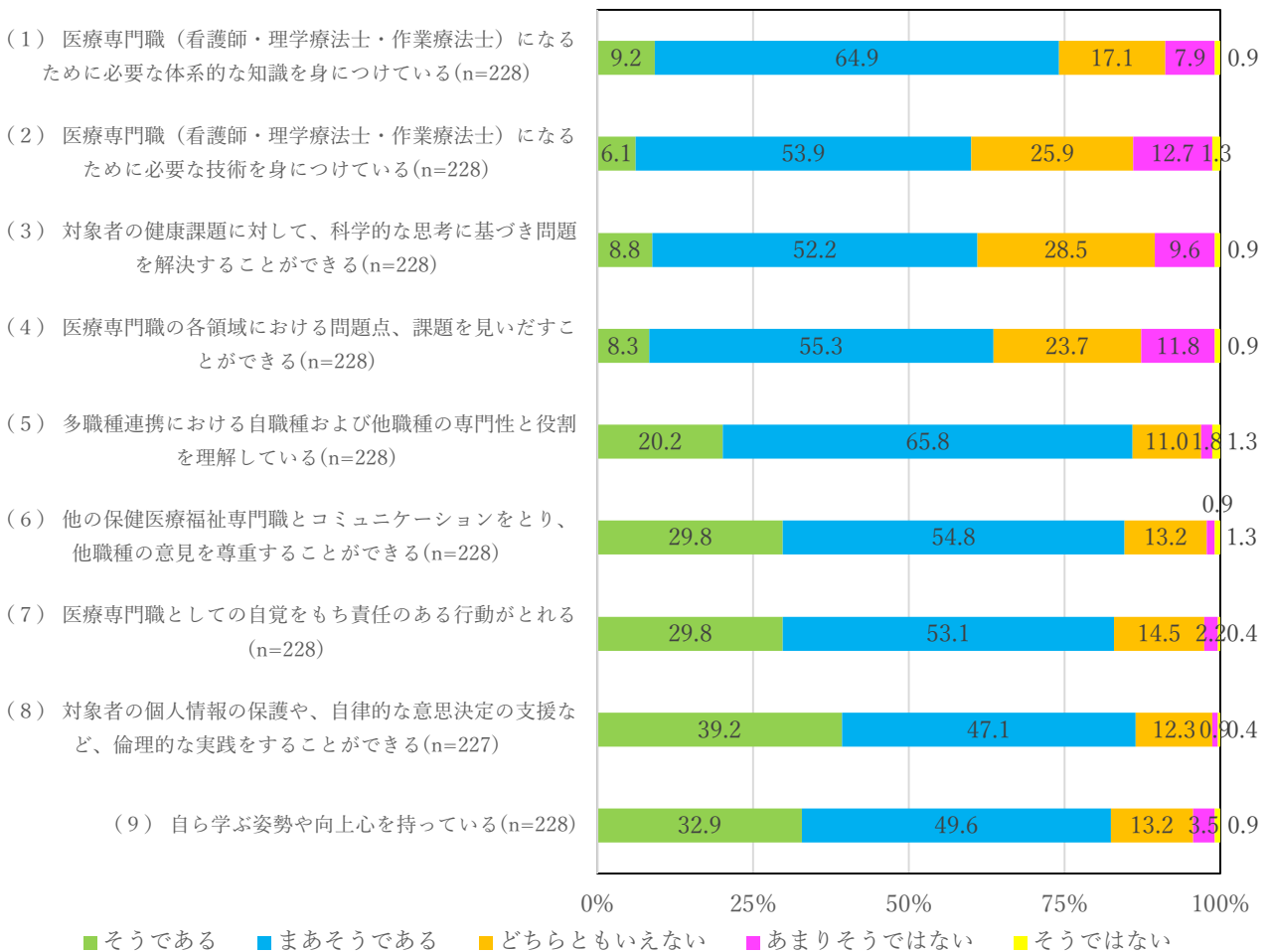


### 3. 学業の成果（卒業時まで身に付けたい能力の獲得状況）

#### 1) 建学の精神を実現するための基盤となる能力(図 15)



#### 2) 保健・医療・福祉の実践を担う専門職、専門分野の発展に寄与する能力(図 16)



3) 建学の精神を実現するための基盤となる能力：学科・学年別平均点(表 25)

\*範囲 1～5 (1:そうではない, 2:あまりそうではない, 3:どちらともいえない, 4:まあそうである, 5:そうである) (平均点\*)

	全体	学科別			学年別			参考値	
		看護 学科	理学 療法 学科	作業 療法 学科	2年生	3年生	4年生	卒業生 調査 (2023)	雇用者 調査 (2023)
(1)自然や社会の現象について、さまざまな立場・視点から考える習慣を身につけている	3.41	3.59	3.33	3.15	3.26	3.40	3.55	3.86	3.76
(2)保健医療福祉の基盤となる社会のさまざまな課題に関心を持ち、洞察する力を身につけている	3.66	3.72	3.66	3.55	3.75	3.50	3.71	-	-
(3)人々の違いを個性として受け止め、他者を尊重する態度を身につけている	4.38	4.49	4.29	4.24	4.38	4.29	4.44	4.38	4.23
(4)他者と積極的にコミュニケーションをとり、良好な対人関係を築くことができる	4.07	4.24	3.92	3.91	3.90	4.11	4.20	-	-
(5)自分の意見や考えをまとめ、的確に表現することができる	3.60	3.75	3.50	3.43	3.54	3.52	3.73	-	-
(6)保健医療福祉のシステム全般を理解し、よりよい方向に進めるための意見を持っている	3.32	3.35	3.42	3.14	3.28	3.24	3.42	3.45	3.24

4) 保健・医療・福祉の実践を担う専門職、専門分野の発展に寄与する能力：学科・学年別平均点(表 26)

\*範囲 1～5 (1:そうではない, 2:あまりそうではない, 3:どちらともいえない, 4:まあそうである, 5:そうである) (平均点\*)

	全体	学科別			学年別			参考値	
		看護 学科	理学 療法 学科	作業 療法 学科	2年生	3年生	4年生	卒業生 調査 (2023)	雇用者 調査 (2023)
(1)医療専門職(看護師・理学療法士・作業療法士)になるために必要な体系的な知識を身につけている	3.74	3.85	3.66	3.60	3.62	3.67	3.89	4.14	4.00
(2)医療専門職(看護師・理学療法士・作業療法士)になるために必要な技術を身につけている	3.51	3.68	3.37	3.34	3.47	3.47	3.58	3.93	3.70
(3)対象者の健康課題に対して、科学的な思考に基づき問題を解決することができる	3.58	3.82	3.53	3.19	3.39	3.52	3.80	3.93	3.82
(4)医療専門職の各領域における問題点、課題を見いだすことができる	3.58	3.76	3.45	3.40	3.41	3.60	3.74	4.07	3.73
(5)多職種連携における自職種および他職種の専門性と役割を理解している	4.02	4.12	3.90	3.95	3.91	3.91	4.20	-	-
(6)他の保健医療福祉専門職とコミュニケーションをとり、他職種の意見を尊重することができる	4.11	4.22	4.06	3.98	4.07	4.00	4.25	4.35	3.96
(7)医療専門職としての自覚をもち責任のある行動がとれる	4.10	4.08	4.18	4.04	3.88	4.06	4.32	4.43	4.20
(8)対象者の個人情報保護や、自律的な意思決定の支援など、倫理的な実践をすることができる	4.24	4.22	4.30	4.22	4.10	4.26	4.35	-	-
(9)自ら学ぶ姿勢や向上心を持っている	4.10	4.26	4.11	3.79	4.07	4.00	4.22	4.31	4.38

#### 4. 悩みや不安、経済的な課題

##### 1) 現在の悩みや不安

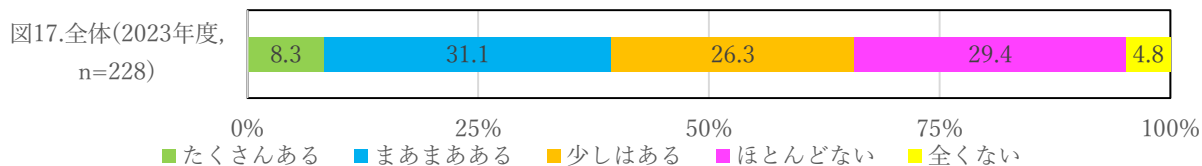


表 27. 現在の悩みや不安友人の人数：学科別・学年別 (%)

		たくさんある	まあまあある	少しはある	ほとんどない	全くない
学科別	看護学科(n=108)	5.6	32.4	23.1	33.3	5.6
	理学療法学科(n=62)	9.7	27.4	35.5	24.2	3.2
	作業療法学科(n=58)	12.1	32.8	22.4	27.6	5.2
学年別	2年生(n=77)	2.6	31.2	26	32.5	7.8
	3年生(n=66)	13.6	30.3	36.4	18.2	1.5
	4年生(n=85)	9.4	31.8	18.8	35.3	4.7

表 28. 現在の悩みや不安友人の人数：年度別 (%)

	たくさんある	まあまあある	少しはある	ほとんどない・全くない
第1回 2004年(n=321)	7.5	37.2	41.6	13.7
第3回 2013年(n=291)	13.3	45.1	33.8	7.8
第4回 2016年(n=349)	8.8	30.7	42.8	17.7
第6回 2023年(n=226)	8.3	31.1	26.3	29.4

##### 2) 悩みや不安の内容（複数回答）（悩み・不安がある者のみ）

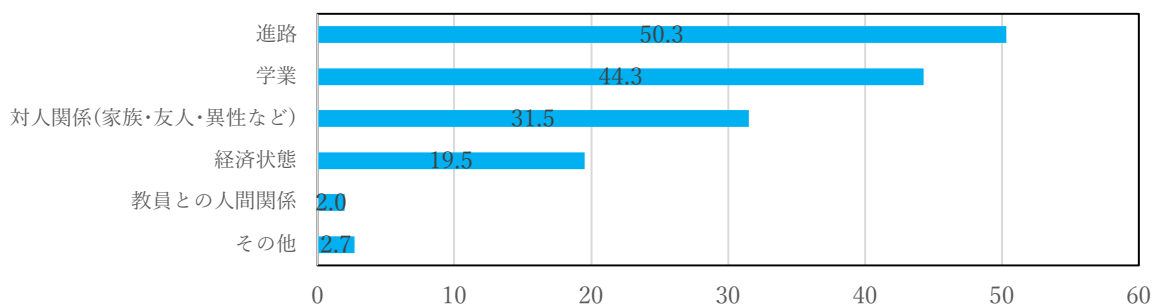


図18.悩み・不安がある者における% (n=149)

\* その他：健康、自身のこと、分からない

表 29. 悩みや不安の内容：学科別・学年別 (%)

		進路	学業	対人関係(家族・友人・異性など)	経済状態	教員との人間関係	その他
学科別	看護学科(n=65)	47.7	32.3	35.4	20.0	0.0	3.1
	理学療法学科(n=45)	51.1	40.0	37.8	17.8	0.0	0.0
	作業療法学科(n=39)	53.8	69.2	17.9	20.5	7.7	5.1
学年別	2年生(n=45)	53.3	40.0	48.9	15.6	0.0	2.2
	3年生(n=53)	56.6	41.5	24.5	18.9	1.9	1.9
	4年生(n=51)	41.2	51.0	23.5	23.5	3.9	3.9

表 30. 悩みや不安の内容：年度別 (％)

	進路	学業	対人関係(家族・友人・異性など)	経済状態	教員との人間関係	その他
第 3 回 2013 年(n=253)	60.4	56.5	42.2	39.1	3.0	3.9
第 4 回 2016 年(n=319)	31.1	40.9	25.3	11.8	0.0	1.0
第 5 回 2021 年(n=211)	61.2	64.1	31.1	30.1	2.4	8.3
第 6 回 2023 年(n=147)	50.3	44.3	31.5	19.5	2.0	2.7

3) 悩みや不安への対処 (悩み・不安がある者のみ)

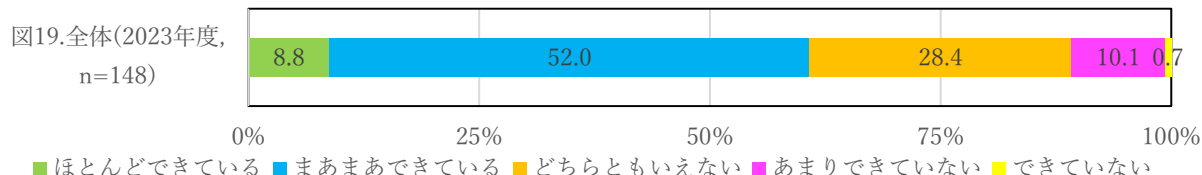


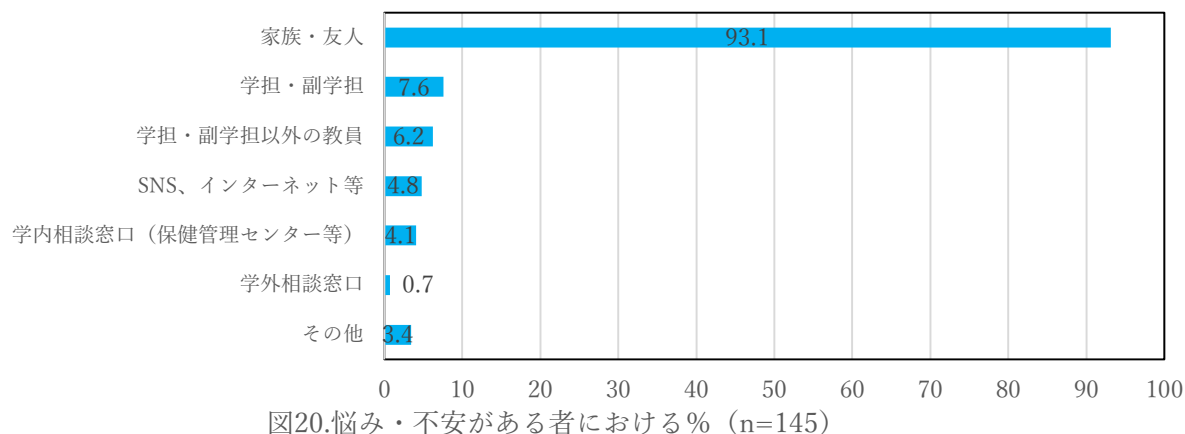
表 31. 悩みや不安への対処：学科別・学年別 (％)

		ほとんどできている	まあまあできている	どちらともいえない	あまりできていない	できていない
学科別	看護学科(n=64)	6.3	54.7	26.6	10.9	1.6
	理学療法学科(n=45)	15.6	51.1	24.4	8.9	0.0
	作業療法学科(n=39)	5.1	48.7	35.9	10.3	0.0
学年別	2 年生(n=44)	9.1	47.7	29.5	11.4	2.3
	3 年生(n=53)	7.5	45.3	39.6	7.5	0.0
	4 年生(n=51)	9.8	62.7	15.7	11.8	0.0

表 32. 悩みや不安への対処：年度別 (％)

	ほとんどできている	まあまあできている	どちらともいえない	あまりできていない	できていない
第 1 回 2004 年(n=321)	18.2	52.4	24.3	5.1	
第 3 回 2013 年(n=291)	9.5	57.7	26.1	6.7	
第 4 回 2016 年(n=349)	11.4	46.9	35.5	6.2	
第 5 回 2021 年(n=211)	9.0	49.5	32.9	8.6	
第 6 回 2023 年(n=146)	8.8	52.0	28.4	10.1	0.7

4) 悩みや不安の相談相手 (複数回答) (悩み・不安がある者のみ)



\*その他：病院, 相談しない(2件)

表 33. 悩みや不安の相談相手：学科別・学年別

(%)

		家族・友人	学担・副学担	学担・副学担以外の教員	SNS、インターネット等	学内相談窓口 (保健管理センター等)	学外相談窓口	その他
学科別	看護学科(n=65)	93.8	7.7	0.0	0.0	0.0	1.5	3.1
	理学療法学科(n=43)	88.4	11.6	18.6	9.3	7.0	0.0	4.7
	作業療法学科(n=37)	97.3	2.7	2.7	8.1	8.1	0.0	2.7
学年別	2年生(n=44)	97.7	4.5	4.5	0.0	0.0	2.3	0.0
	3年生(n=51)	88.2	3.9	3.9	0.0	7.8	3.9	3.9
	4年生(n=50)	94.0	14.0	14.0	2.0	10.0	6.0	10.0

表 34. 悩みや不安の相談相手：年度別

(%)

		家族	友人	学担・副学担	学担・副学担以外の教員	SNS、インターネット等	学内相談窓口 (保健管理センター等)	学外相談窓口	その他
第5回 2021年(n=220)		66.8	81.0	14.7	7.1	-	0.4	-	-
第6回 2023年(n=145)		家族・友人		学担・副学担	学担・副学担以外の教員	SNS、インターネット等	学内相談窓口 (保健管理センター等)	学外相談窓口	その他
		93.1		7.6	6.2	4.8	4.1	0.7	3.4

5) 授業料、生活費の支弁者（最も負担額が大きい者）

図21.全体(2023年度, n=228)

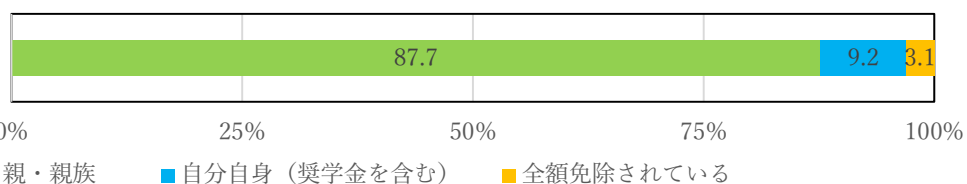


表 35. 授業料、生活費の支弁者：学科別・学年別

(%)

		親・親族	自分自身 (奨学金を含む)	全額免除されている
学科別	看護学科(n=108)	86.1	11.1	2.8
	理学療法学科(n=62)	91.9	4.8	3.2
	作業療法学科(n=58)	86.2	10.3	3.4
学年別	2年生(n=77)	90.9	9.1	0.0
	3年生(n=66)	89.4	7.6	3.0
	4年生(n=85)	83.5	10.6	5.9

6) 奨学金の受給

図22.全体(2023年度, n=228)

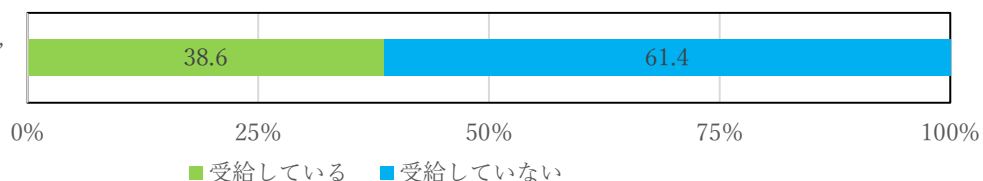


表 36. 奨学金の受給：学科別・学年別 (%)

		受給している	受給していない
学科別	看護学科(n=108)	46.3	53.7
	理学療法学科(n=62)	19.4	80.6
	作業療法学科(n=58)	44.8	55.2
学年別	2年生(n=77)	37.7	62.3
	3年生(n=66)	42.4	57.6
	4年生(n=85)	36.5	63.5

表 37. 学金の受給：年度別奨 (%)

	受給している	受給していない
第1回 2004年(n=321)	29.4	70.6
第2回 2008年(n=337)	35.6	64.4
第3回 2013年(n=295)	37.7	62.3
第4回 2016年(n=349)	47.0	53.0
第5回 2021年(n=220)	38.1	61.9
第6回 2023年(n=228)	38.6	61.4

7) 学業を続けていく上での経済的な不安

図23.全体(2023年度, n=228)

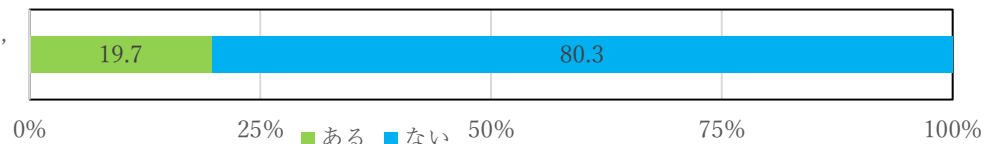


表 38. 奨学金の受給：学科別・学年別 (%)

		ある	ない
学科別	看護学科(n=108)	21.3	78.7
	理学療法学科(n=62)	25.8	74.2
	作業療法学科(n=58)	10.3	89.7
学年別	2年生(n=77)	10.4	89.6
	3年生(n=66)	27.3	72.7
	4年生(n=85)	22.4	77.6

5. 支援制度の利用状況

1) 学生担当教員（学担・副学担）制度の認知

図24.全体(2023年度, n=227)

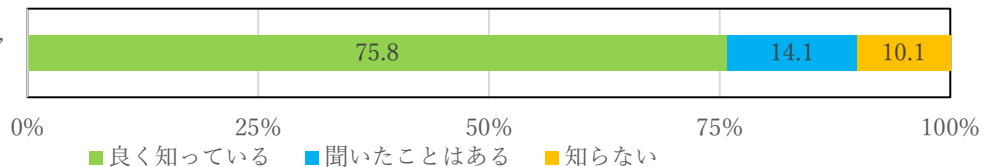


表 39. 学生担当教員（学担・副学担）制度の認知：学科別・学年別 (%)

		良く知っている	聞いたことはある	知らない
学科別	看護学科(n=108)	78.7	13.0	8.3
	理学療法学科(n=62)	74.2	14.5	11.3
	作業療法学科(n=57)	71.9	15.8	12.3
学年別	2年生(n=77)	67.5	19.5	13
	3年生(n=66)	77.3	15.2	7.6
	4年生(n=84)	82.1	8.3	9.5

表 40. 学生担当教員（学担・副学担）制度の認知：年度別 (%)

	良く知っている	聞いたことはある	知らない
第 3 回 2013 年(n=291)	51.4	38.7	9.9
第 4 回 2016 年(n=349)	26.9	40.5	32.7
第 5 回 2021 年(n=220)	64.6	31.6	3.8
第 6 回 2023 年(n=225)	75.8	14.1	10.1

2) 保健管理センターの認知

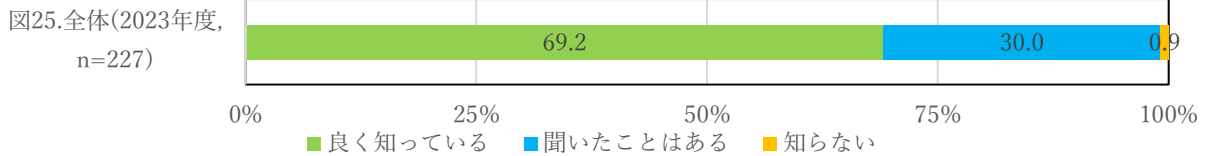


表 41. 保健管理センターの認知：学科別・学年別 (%)

		良く知っている	聞いたことはある	知らない
学科別	看護学科(n=108)	75.0	24.1	0.9
	理学療法学科(n=62)	61.3	38.7	0.0
	作業療法学科(n=57)	66.7	31.6	1.8
学年別	2 年生(n=77)	68.8	29.9	1.3
	3 年生(n=66)	71.2	28.8	0.0
	4 年生(n=84)	67.9	31.0	1.2

表 42. 保健管理センターの認知：年度別・学年別 (%)

	良く知っている	聞いたことはある	知らない
第 3 回 2013 年(n=291)	8.6	33.8	57.6
第 4 回 2016 年(n=349)	14.7	52.6	32.7
第 5 回 2021 年(n=220)	73.9	25.2	0.9
第 6 回 2023 年(n=227)	69.2	30.0	0.9

3) ハラスメント相談窓口の認知

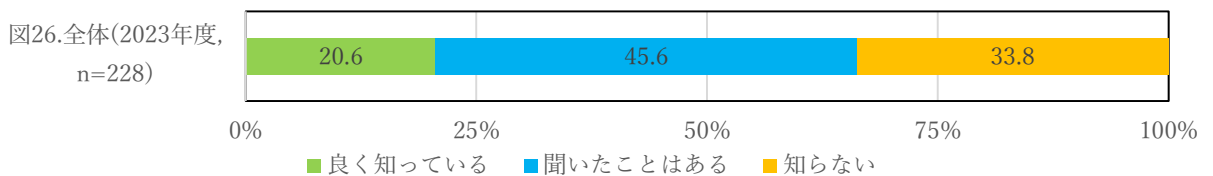


表 43. ハラスメント相談窓口の認知：学科別・学年別 (%)

		良く知っている	聞いたことはある	知らない
学科別	看護学科(n=108)	28.7	41.7	29.6
	理学療法学科(n=62)	9.7	53.2	37.1
	作業療法学科(n=58)	17.2	44.8	37.9
学年別	2 年生(n=77)	18.2	36.4	45.5
	3 年生(n=66)	16.7	47.0	36.4
	4 年生(n=85)	25.9	52.9	21.2

表 44. ハラスメント相談窓口の認知：年度別 (%)

	良く知っている	聞いたことはある	知らない
第 3 回 2013 年(n=291)	4.8	35.9	59.3
第 4 回 2016 年(n=349)	6.4	51.3	42.3
第 5 回 2021 年(n=220)	19.7	32.1	48.2
第 6 回 2023 年(n=228)	20.6	45.6	33.8

## 6. 今後学生生活を送る上で充実させて欲しい支援内容（複数回答）

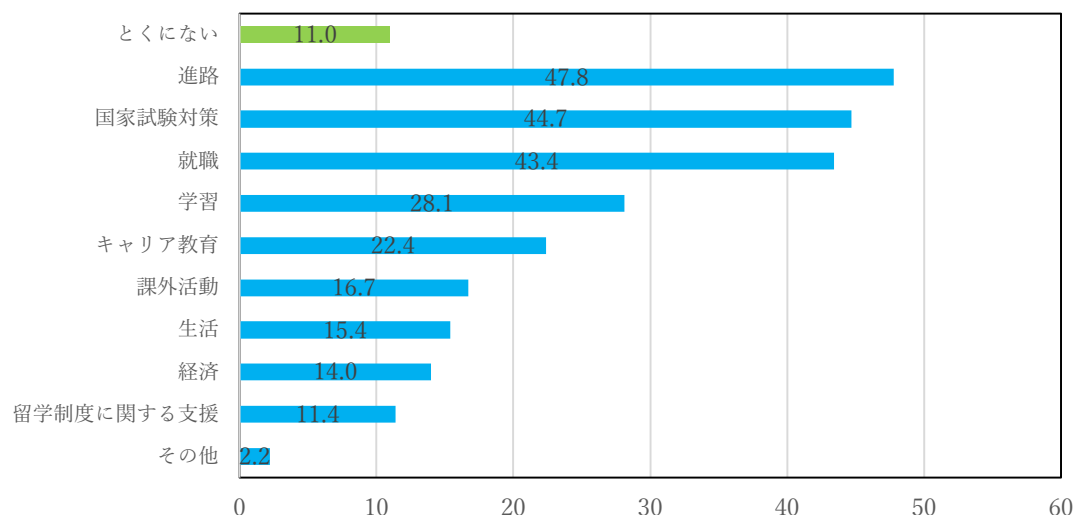


図27.全体における% (n=226)

\* その他：駐輪場の整備，サークル等の整備（EVの修理），長期休暇，学務課のサポート

表 45. 今後学生生活を送る上で充実させて欲しい支援内容：学科別・学年別 (%)

		とくにない	進路	国家試験対策	就職	学習	キャリア教育	課外活動	生活	経済	留学制度に関する支援	その他
学科別	看護学科 (n=108)	12.0	45.4	46.3	40.7	24.1	23.1	13.9	17.6	14.8	11.1	2.8
	理学療法学科 (n=62)	11.3	50.0	37.1	41.9	25.8	22.6	22.6	11.3	14.5	12.9	1.6
	作業療法学科 (n=58)	8.6	50.0	50.0	50.0	37.9	20.7	15.5	15.5	12.1	10.3	1.7
学年別	2年生 (n=77)	6.5	51.9	58.4	42.9	33.8	22.1	16.9	14.3	9.1	11.7	3.9
	3年生 (n=66)	7.6	60.6	48.5	51.5	33.3	19.7	16.7	24.2	27.3	10.6	3.0
	4年生 (n=85)	17.6	34.1	29.4	37.6	18.8	24.7	16.5	9.4	8.2	11.8	0.0

表 46. 年度別今後学生生活を送る上で充実させて欲しい支援内容 (%)

	とくにない	進路	国家試験対策	就職	学習	キャリア教育	課外活動	生活	経済	留学制度に関する支援	その他
第3回 2013年 (n=291)	7.6	50.2	49.1	39.5	39.4	11.0	10.0	11.0	15.8	8.6	-
第5回 2021年 (n=220)	8.2	49.5	43.2	44.1	39.5	19.5	18.2	16.8	25.9	10.5	-
第6回 2023年 (n=228)	11.0	47.8	44.7	43.4	28.1	22.4	16.7	15.4	14.0	11.4	2.2



## VI. 資料

### 1. 依頼文書

在学生各位

令和 5 年 12 月 25 日

札幌医科大学保健医療学部のディプロマポリシーに基づく学修成果の評価および生活実態に関する調査 ご協力をお願い

北海道公立大学法人 札幌医科大学  
保健医療学部 学部長 片寄 正樹  
医療人育成センター・統合 IR 部門長 辻 喜久

保健医療学部では、本学で行われている教育の学修成果を総合的に評価することを目的に、在学生、卒業生、および雇用者の方々に対する調査を行っています。この結果をもとに、教育内容の一層の充実を図りたく、調査への協力をお願いいたします。

#### 1. 調査の目的

2020（令和 2）年度カリキュラム及び、保健医療学部ディプロマポリシー（以下、DP とする）のもとで教育を受けている在学生を対象とした調査を行い、在学生の DP の到達度及び生活実態を明らかにします。また、卒業生や卒業生が勤務する施設・自治体・企業を対象に同様の調査を行い、多角的に DP の到達度を評価することにより、現在のカリキュラムの評価及び次期カリキュラム改定に活用します。

#### 2. 対象者

在学生：2020 年度～2022 年度に保健医療学部に入学生した 2～4 年生約 270 名

#### 3. 倫理的配慮

- 1) 調査協力への同意：本調査への回答をもって、調査への同意とみなします。
- 2) 同意しない場合の不利益：調査協力は任意であり、協力しなくても不利益はありません。
- 3) プライバシー保護：調査は無記名式で行われ、個人のデータが公開されることはありません。データは、統合 IR 部門が管理するインターネットに接続しない PC またはハードディスクに保管します。
- 4) 調査結果の公表：調査結果は全学、学部、医療人育成センターの会議を通じて関係者に報告します。
- 5) 予期される危険と費用負担：回答は 15 分程度の時間を要します。Web 回答の場合は、環境によりインターネット接続費用がかかる場合があります。

#### 4. 調査期間：2023 年 12 月 25 日～ 2024 年 1 月 9 日

#### 5. 調査方法

インターネット調査となります。下記 URL または QR コードからご回答ください

<https://form.qooker.jp/Q/auto/ja/hokegakuzaigakusei/main/>



#### <問合せ先>

本調査につきご不明な点は、保健医療学部統合 IR 部門連携ワーキンググループの教員へお尋ねください。調査の趣旨をご理解の上、ご協力のほどお願いいたします。

札幌医科大学保健医療学部 統合 IR 部門連携ワーキンググループ

e-mail: iir-desk@sapmed.ac.jp（日中・夜間）

電話：代表 011-611-2111（日中）

担当：山本 武志（看護学科：内線 23780）

横山 和樹（作業療学科：内線 28870）

岡田 尚美（看護学科：内線 28690）

根木 亨（理学療学科：内線 29150）

## 2. 調査票

### 札幌医科大学保健医療学部のディプロマポリシーに基づく学修成果の評価および生活実態に関する調査

この調査では学部学生の基本属性と生活状況、学業の成果、学生支援のニーズ、及びその利用状況について調査を行い、より効果的な学生支援につなげるための基礎資料を作成することを目的とします。是非ともご協力をお願いします。結果は調査の目的以外には使用いたしませんので、ありのままをご回答下さい。

<各設問について該当する番号をチェックしてください>

#### I. 基本属性と生活状況（あなたのことについて教えてください）

(1) あなたの学籍番号をお答えください

学籍番号 \_\_\_\_\_

\*回答いただいた情報は、入学時に同意いただいた「教育プログラム改善のための継続的学情情報集」の方針に基づいて管理、集合データとして活用されます。ご協力のほど、よろしく願いいたします。

(2) 居住形態

1. 自宅（家族等と同居） 2. 下宿、アパート、学生寮など

(3) 通学時間（片道）

1. 15分未満 2. 15分～30分未満 3. 30分～1時間未満 4. 1時間以上

(4) 加入している部活動・サークル（複数回答可）

1. 運動系(本学) 2. 文化系(本学) 3. 運動系(他大学/ｲﾝｶﾙ) 4. 文化系(他大学/ｲﾝｶﾙ)  
5. 加入していない (→(10)へおすすみください)

(5) 部活動・サークル活動への参加頻度は1週あたりどのくらいですか

1. 週1回 2. 週2回 3. 週3回 4. 週4回 5. 週5回以上

(6) 部活動・サークル活動でどのようなことを得られましたか（複数回答可）

1. 人格形成、忍耐力・責任感 2. 授業では得られない知識・教養 3. 社会人としての基礎力  
4. 問題対応能力 5. コミュニケーション能力 6. 情報通信技術 7. 健康の増進  
8. その他（ ）

(7) 平日の平均睡眠時間

1. 5時間未満 2. 5～6時間 3. 6～7時間 4. 7～8時間 5. 8時間以上

- (8) 食事はどのようにしていますか (最も頻度が高いものを選んでください)
1. 三食きちんと食べている
  2. 三食は食べないことが多い
- (9) アルバイトをした時間は1週あたりどのくらいですか
1. していない
  2. 3時間未満
  3. 3時間以上～10時間未満
  4. 10時間以上
- (10) アルバイトでどのようなことを得られましたか (している方のみ回答ください。複数可。)
1. 人格形成、忍耐力・責任感
  2. 授業では得られない知識・教養
  3. 社会人としての基礎力
  4. 問題対応能力
  5. コミュニケーション能力
  6. 情報通信技術
  7. 健康の増進
  8. その他 ( )
- (11) PC・スマホ・タブレット等で他者とコミュニケーションに費やした時間は1日あたりどのくらいですか (但し、大学の講義で使用した時間は除く)
1. 使用していない
  2. 30分未満
  3. 30分～2時間
  4. 2時間以上
- (12) YouTube、X (旧 Twitter)、Instagram 等の閲覧に費やした時間は1日あたりどのくらいですか
1. 1時間未満
  2. 1時間～3時間
  3. 3時間～5時間
  4. 5時間以上
- (13) 読書 (マンガ・一般雑誌を除く) に費やした時間は1日あたりどのくらいですか
1. していない
  2. 30分未満
  3. 30分～2時間
  4. 2時間以上
- (14) この1年間に、ボランティア活動をしましたか
1. した
  2. していない
- (15) 友人はどのくらいいますか (学内外問いません)
1. 大勢いる
  2. まあまあいる
  3. 少しはいる
  4. ほとんどいない

## II. 学業の成果 (卒業時まで身に付けたい能力をどの程度まで獲得できているか)

### 【1】建学の精神を実現するための基盤となる能力

- (16) 自然や社会の現象について、さまざまな立場・視点から考える習慣を身につけている
1. そうではない
  2. あまりそうではない
  3. どちらともいえない
  4. まあそうである
  5. そうである
- (17) 保健医療福祉の基盤となる社会のさまざまな課題に関心を持ち、洞察する力を身につけている
1. そうではない
  2. あまりそうではない
  3. どちらともいえない
  4. まあそうである
  5. そうである
- (18) 人々の違いを個性として受け止め、他者を尊重する態度を身につけている
1. そうではない
  2. あまりそうではない
  3. どちらともいえない
  4. まあそうである
  5. そうである

- (19) 他者と積極的にコミュニケーションをとり、良好な対人関係を築くことができる  
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである
- (20) 自分の意見や考えをまとめ、的確に表現することができる  
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである
- (21) 保健医療福祉のシステム全般を理解し、よりよい方向に進めるための意見を持っている  
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである
- 【2】保健・医療・福祉の実践を担う専門職、専門分野の発展に寄与する能力**
- (22) 医療専門職（看護師・理学療法士・作業療法士）になるために必要な体系的な知識を身につけている  
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである
- (23) 医療専門職（看護師・理学療法士・作業療法士）になるために必要な技術を身につけている  
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである
- (24) 対象者の健康課題に対して、科学的な思考に基づき問題を解決することができる  
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである
- (25) 医療専門職の各領域における問題点、課題を見いだすことができる  
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである
- (26) 多職種連携における自職種および他職種の専門性と役割を理解している  
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである
- (27) 他の保健医療福祉専門職とコミュニケーションをとり、他職種の意見を尊重することができる  
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである
- (28) 医療専門職としての自覚をもち責任のある行動がとれる  
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである
- (29) 対象者の個人情報の保護や、自律的な意思決定の支援など、倫理的な実践をすることができる  
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである
- (30) 自ら学ぶ姿勢や向上心を持っている  
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである

**Ⅲ. 悩みや不安、経済的な課題について（学生支援の必要性について聞かせてください。）**

- (31) 現在悩みや不安はありますか  
1. たくさんある 2. まあまあある 3. 少しはある 4. ほとんどない 5. 全くない  
→35へお進みください
- (32) あなたの悩みや不安について最もあてはまるものを選んで下さい（ある方のみ回答ください）  
1. 学業 2. 進路 3. 経済状態 4. 対人関係(家族・友人・異性など) 5. 教員との人間関係  
6. その他（ ）
- (33) 悩みや不安に対して自分なりに対処できていますか（ある方のみ回答ください）  
1. ほとんど 2. まあまあ 3. どちらとも 4. あまり 5. できていない  
できている できている いえない できていない
- (34) 悩みや不安は誰に相談しますか？（ある方のみ回答ください。複数回答可。）  
1. 家族・友人 2. 学担・副学担 3. 学担・副学担以外の教員 4. 学内相談窓口（保健管理センター等）  
5. 学外相談窓口 6. SNS、インターネット等 7. その他（ ）
- (35) 授業料、生活費の支弁者は誰ですか（最も負担額が大きい者）  
1. 自分自身（奨学金を含む） 2. 親・親族 3. 全額免除されている 4. その他（ ）
- (36) 奨学金の受給について  
1. 受給している 2. 受給していない
- (37) 学業を続けていく上での経済的な不安  
1. ある 2. ない

**Ⅳ. 支援制度の利用状況について（学生支援が十分提供されているのか聞かせてください。）**

- (38) 学生担当教員（学担・副学担）制度を知っていますか  
1. 知らない 2. 聞いたことはある 3. 良く知っている
- (39) 保健管理センターを知っていますか  
1. 知らない 2. 聞いたことはある 3. 良く知っている
- (40) 学部内にハラスメント相談窓口があることを知っていますか  
1. 知らない 2. 聞いたことはある 3. 良く知っている
- (41) あなたが今後学生生活を送る上で充実させて欲しい支援内容を選んで下さい（複数回答可）  
1. とくにない 2. 学習 3. 進路 4. キャリア教育 5. 国家試験対策 6. 就職  
7. 経済 8. 生活 9. 課外活動 10. 留学制度に関する支援 11. その他（ ）

ご協力ありがとうございました。